

愛知県地域包括ケアモデル事業報告書

平成 29 年 11 月



目 次

はじめに	2
1 地域包括ケアモデル事業について	3
(1) 高齢化の進行	3
(2) 地域包括ケアの必要性	3
(3) 地域包括ケアモデル事業の実施	4
2 モデル事業実施市の取組	11
(1) 安城市（地区医師会モデル）	11
(2) 豊川市（地区医師会モデル）	31
(3) 田原市（地区医師会モデル）	55
(4) 新城市（訪問看護ステーションモデル）	69
(5) 豊明市（医療・介護等一体提供モデル）	89
(6) 半田市（認知症対応モデル）	101

はじめに

今後、急速に高齢化が進行する中、高齢者が地域で安心して暮らすことができる体制づくりを進めていく必要があります。

そのためには、医療、介護、予防、生活支援、住まいを切れ目なく提供する「地域包括ケアシステム」の構築が重要となってきます。

本県では、県内全域での地域包括ケアシステムの構築に向けて、平成24年度から「あいちの地域包括ケアを考える懇談会」を設置し検討を進め、平成26年1月に「地域包括ケアシステム構築に向けた提言」がとりまとめられました。

この提言では、地域の社会資源などに着目した4つのモデルが示され、これに基づき、地域包括ケアモデル事業を平成26年度から平成28年度までの3年間、6市において実施いたしました。

このモデル事業の取組については、「あいちの地域包括ケアを考える懇談会」において評価していただき、順調又はおおむね順調に進められ、多くの市町村において参考とされているとの評価をいただきました。

市町村等への情報提供については、モデル事業の取組状況の報告会を開催し、広くお伝えしてまいりましたが、この度、その内容を冊子としてとりまとめましたので、市町村始め関係団体等の方々の、今後の取組の参考として御活用いただければと思います。

最後に、モデル事業の実施にあたり御尽力いただきましたモデル事業実施市や関係者の皆様を始め、貴重な御意見をいただきました多くの方々に深く感謝申し上げます。

1 地域包括ケアモデル事業について

(1) 高齢化の進行

- 急速な高齢化の進行により、今後ますます高齢者が増加することが予測されており、国立社会保障・人口問題研究所が平成 25 年 3 月に公表した日本の地域別将来推計人口によると、愛知県の高齢者数は平成 22 年に 151 万人だったものが、団塊の世代の方々が 75 歳以上となる平成 37 年には 194 万人に増加すると推計されている。

特に 75 歳以上高齢者の割合は、平成 22 年の 8.9%から平成 37 年には 15.9%に大幅に高くなると推計されている。

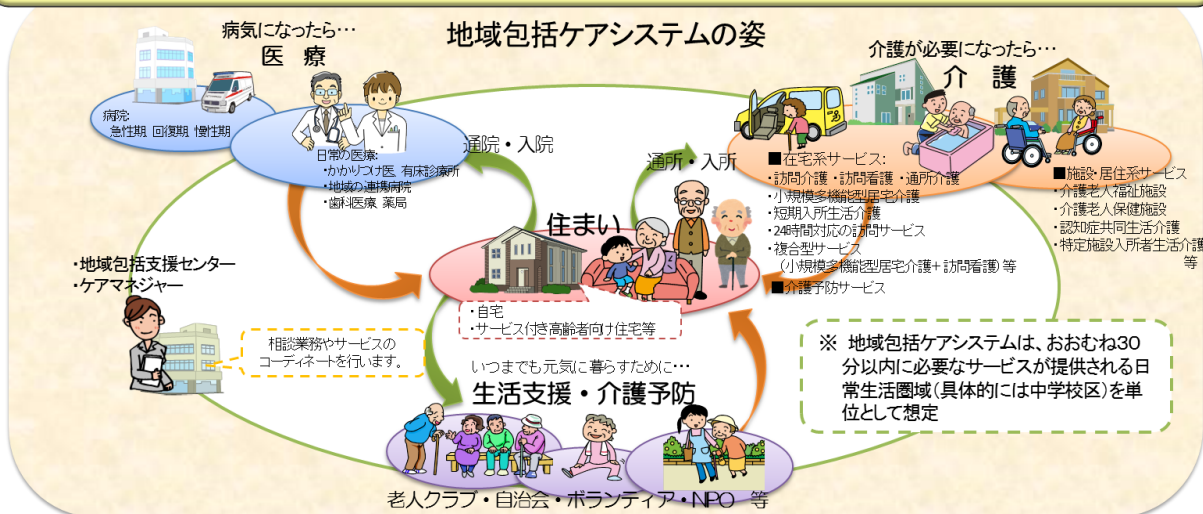
- 世帯主が 65 歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯は、平成 22 年には単独世帯が約 23 万世帯、夫婦のみ世帯が約 29 万世帯だったものが、平成 37 年にはそれぞれ約 35 万世帯に増加すると予測されている。

(2) 地域包括ケアの必要性

- 団塊の世代の方々が 75 歳以上となる平成 37 年には、医療や介護等を必要とする人が大幅に増えると予想されているが、医療や介護等が必要な状態になっても、多くの方々は適切なサービスを利用し、尊厳を保持しながら住み慣れた地域で自立した日常生活を送りたいと願っている。
- 高齢者が地域で安心して暮らし続けるためには、医療、介護のみならず、予防、生活支援、住まいを地域において切れ目なく一体的に提供する「地域包括ケアシステム」を構築していく必要がある。

地域包括ケアシステムの構築について

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差。**
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要。**

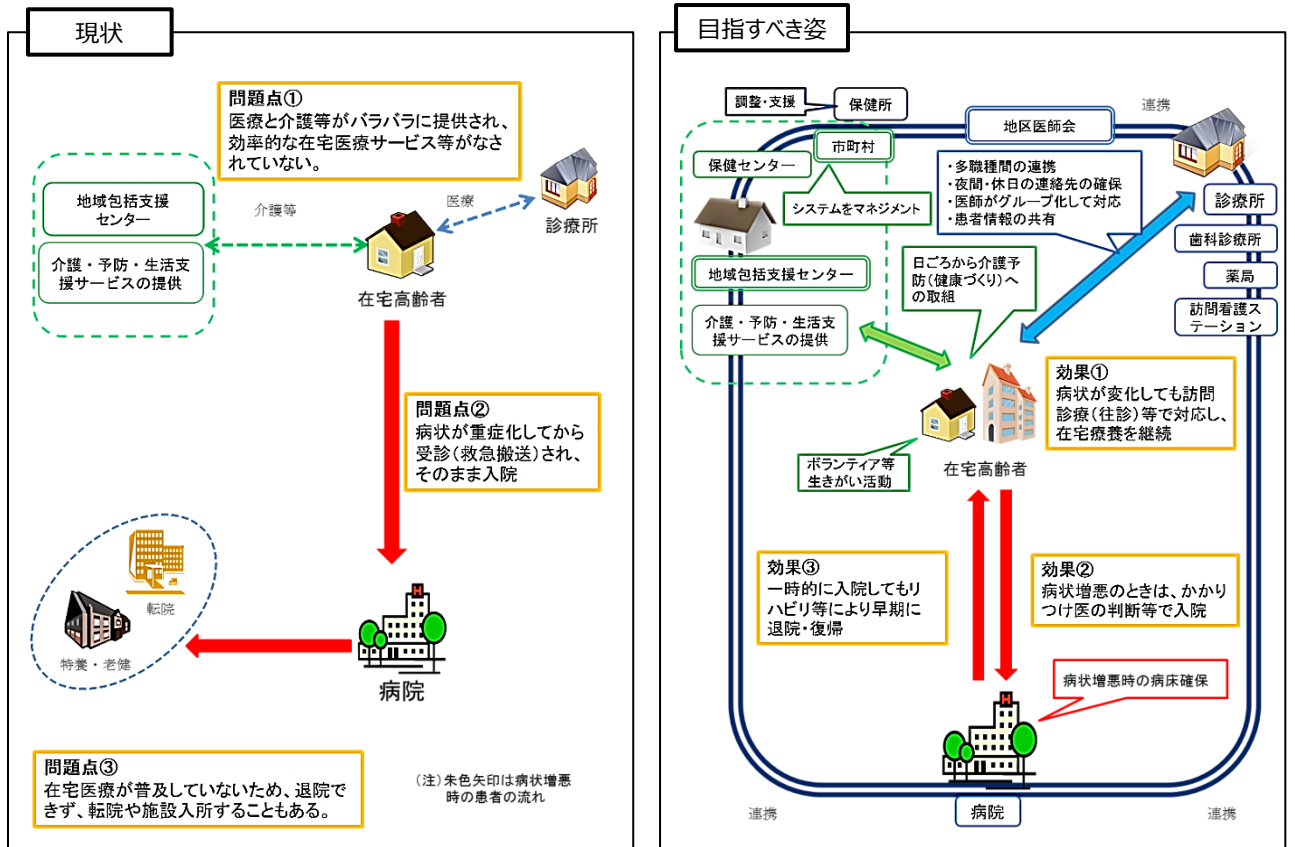


資料：厚生労働省

(3) 地域包括ケアモデル事業の実施

- 本県における地域包括ケアシステムのあるべき姿やその構築の進め方等を明らかにするため、平成24年度に、医療・介護・福祉関係団体の代表者や有識者を委員とした「あいちの地域包括ケアを考える懇談会」を設置し、平成26年1月に「地域包括ケアシステム構築に向けた提言」がとりまとめられた。

- 提言において指摘された本県の現状と目指すべき姿は、以下のとおりである。



- この提言では、地域包括ケアシステムの核となる在宅医療提供体制の整備や、医療と介護の連携について、市町村と一緒に中心となる役割を果たす機関に着目した3つのモデルと、今後大幅に増加することが見込まれる認知症に対応したモデルの計4つのモデル事業を実施し、その成果や課題を他の地域の参考にしてもらい、取組を促進させることが有効であると示された。

<モデルの説明>

地区医師会モデル
在宅医療を提供する医師が複数いる地域で、地区医師会と市町村が中心となって、診療所のグループ化などにより在宅医療提供体制を整えるとともに、医療・介護・予防・生活支援を担う各関係職種が連携するモデル。
訪問看護ステーションモデル
在宅医療を提供する医師が限られている地域で、医療・介護の双方に通じた訪問看護ステーションが中心となって高齢者の在宅療養を支えるモデル。
医療・介護等一体提供モデル
医療・介護に係る複数の事業所を持つ法人（又は法人グループ）が一体的にサービスを提供しながら、市町村、地区医師会と協議の場を持ち、地域包括ケアの方向性を共有しながら、システムを構築していくモデル。
認知症対応モデル
地域包括ケアシステムの枠組みの中で安心して暮らすことができるよう、関係者の認知症対応力の向上を図るなど、認知症対応に重点を置いたモデル。

- こうしたことから本県では、平成 26 年度から 28 年度までの 3 年間、モデル事業を実施するとともに、その実施状況について報告会等を開催して、市町村や医療・介護関係者、県民の方々等に対してこの取組の成果等を広く周知した。

<モデル事業実施市町村>

モデル	箇所数	実施市町村
地区医師会モデル	3 箇所	安城市、豊川市、田原市
訪問看護ステーションモデル	1 箇所	新城市
医療・介護等一体提供モデル	1 箇所	豊明市
認知症対応モデル	1 箇所	半田市

< 3年間の主な取組 >

年度	主な取組内容
26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関のネットワーク化（関係機関連絡会議、地域ケア会議の開催等） ・ 医療と介護の連携（ICTを活用した情報共有、多職種の研修、普及啓発等） ・ 認知症に関する多職種の研修、普及啓発〈認知症対応モデル〉 等
27	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年目の取組の継続 ・ 介護予防の取組（介護予防のための通いの場を開催等） ・ 生活支援サービスの強化策の取組の検討・実施 ・ 要介護等の高齢者の住まいの課題に対する具体策の検討 ・ 認知症に対応した新たな取組（認知症カフェの設置等）〈認知症対応モデル〉 等
28	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2年目の取組の継続 ・ 生活支援サービスの強化策の実施 ・ 要介護等の高齢者の住まいの課題に対する具体策の検討・実施 ・ 認知症に対応した取組の充実〈認知症対応モデル〉 等

<報告会の実施状況>

年度	会議名	開催日	開催場所	内 容	参加者数
26	事業 説明会	平成 26 年 6 月 30 日	ウイル あいち	・モデル事業について（安城市、豊川 市、田原市、新城市、豊明市、半田市）	303 名
	中間 報告会	平成 26 年 10 月 31 日	愛知県 自治 研修所	・モデル事業の取組（安城市、豊川市、 田原市、新城市、豊明市、半田市） ・講演「地域包括ケアの考え方」産業 医科大学医学部 松田晋哉教授	172 名
	活動成果 報告会	平成 27 年 3 月 23 日	ウイル あいち	・モデル事業の取組（豊明市、半田市） ・広島県尾道市公立みつぎ総合病院の 取組	397 名
		平成 27 年 3 月 24 日	豊橋市 公会堂	・モデル事業の取組（豊川市、田原市、 新城市） ・長野県川上村の取組	150 名
		平成 27 年 3 月 27 日	刈谷市 産業振興 センター	・モデル事業の取組（安城市） ・三重県名張市の取組	207 名
27	中間 報告会	平成 27 年 10 月 29 日	ウイル あいち	・モデル事業の取組（安城市、豊川市、 田原市、新城市、豊明市、半田市）	148 名
	活動成果 報告会	平成 28 年 3 月 23 日	豊橋市 公会堂	・モデル事業の取組（豊川市、田原市、 新城市） ・三重県四日市市の取組	180 名
		平成 28 年 3 月 24 日	吹上 ホール	・モデル事業の取組（安城市、豊明市、 半田市） ・東京都武蔵野市の取組	261 名
28	中間 報告会	平成 28 年 10 月 28 日	ウイル あいち	・モデル事業の取組（安城市、豊川市、 田原市、新城市、豊明市、半田市）	146 名
	活動成果 報告会	平成 29 年 3 月 21 日	吹上 ホール	・モデル事業の取組（安城市、豊明市、 半田市） ・さわやか福祉財団の取組	255 名
		平成 29 年 3 月 23 日	豊橋市 公会堂	・モデル事業の取組（豊川市、田原市、 新城市） ・全国コミュニティライフサポート センターの取組	149 名

出席者は、市町村職員、医療・介護・福祉等団体関係者、地域包括支援センター職員、一般県民等

<報告会の様子>



地域包括ケアモデル事業活動成果報告会（平成 27 年 3 月 23 日ウィルあいち）

<あいちの地域包括ケアを考える懇談会の開催状況>

年度	開催状況	
24	第 1 回（平成 24 年 6 月 12 日） 第 2 回（平成 25 年 3 月 26 日）	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県における地域包括ケアシステム構築に向けた取組の検討 ・「地域包括ケアシステム構築に向けた提言」のとりまとめ
25	第 1 回（平成 25 年 10 月 7 日） 第 2 回（平成 25 年 12 月 25 日） 第 3 回（平成 26 年 1 月 31 日）	
26	第 1 回（平成 27 年 2 月 10 日）	
27	第 1 回（平成 28 年 2 月 4 日）	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域包括ケアモデル事業」の評価
28	第 1 回（平成 29 年 2 月 13 日）	